**菊池五山：西福寺**

旧城下町・隈府の西側にある西福寺は、菊池五山のひとつである。これらの中世の禅寺は、さまざまな行政、監督、宗教的任務を果たす代わりに、菊池氏の保護を受けた。五山制度では、四方位をそれぞれ1つの寺が守り、中央の寺が5つの寺を完成させた。西福寺は西を守る役割を担っていた。

菊池五山は改革者であり戦略家でもあった、一族が最も繁栄した時代をもたらした菊池武光（1319-1373）によって指定された。五山を選定する際、武光は南宋時代（1127-1279）の中国で始まり、鎌倉幕府（1185-1333）によって日本にもたらされた伝統に倣った。鎌倉五山制度の目的は、幕府が最も好んだ仏教の宗派である禅を広めることと、その寺院を官僚機構に組み入れ、天下と民に対する幕府の統制を強化することであった。菊池武光が五山制度を導入したのも、宗教的な徳と行政的な利益という2つの目的があったからだと想像できる。

本堂の裏手にある小さな墓地には、中世のものと思われる墓石や供養塔がいくつかある。その中には、1274年と1281年にモンゴル皇帝が日本に侵攻しようとしたとき、フビライ・ハンの軍勢と戦った菊池一族の赤星有隆（1333年没）を祀る石塔がある。